

## 徳島県総合計画審議会「『未知への挑戦』推進部会」会議録

I 日時 令和元年12月6日(金) 午前10時から正午まで

II 場所 徳島県庁10階大会議室

III 出席者

金貞均部会長，青木正繁副部会長，植本修子委員，近藤明子委員，  
高畑拓弥委員，谷尚美委員，近森由記子委員，平岡深愛委員，藤岡梨沙委員

IV 議題

1 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」改善見直しについて

2 その他

< 配付資料 >

資料1 対話集会「新未来セッションNEO」の開催結果概要

資料2 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」令和2年度への「改善見直し」(案)について

資料3 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」改善見直しシート

(参考資料) 県政運営評価戦略会議「提言書」及び「主要施策等評価シート」

V 議事録

- ・議題に先立ち，事務局より資料1により「対話集会『新未来セッションNEO』の開催結果概要」について説明。

(金部会長)

事務局から概要説明がありました。何か補足のご意見など、ございますでしょうか。

(高畑委員)

小松島西高校で開催された対話集会「新未来セッションNEO」に参加させて頂きました。今回、おそらく目的が2つありまして、徳島県は魅力的な施策を行っていて魅力的な場所だということを知者に周知して、定着率を上げていこうとする目的が1つと、もう1つは政策形成にあたって若者の意見を反映していきたいという2つ目的があるかなと感じました。その中で、私自身現場で感じたのはとても徳島愛がある子が多いなというのが率直な感想です。加えて言うと、参加された生徒達の意見ということで77名という参加者に限定したデータは、統計としては弱いものがあると思いますので、もしこういうデータを使うのであれば、他にも参加できなかった子達の声も拾っていく必要があるかもしれないと思います。

対話集会に参加する子達は、いわゆる徳島愛があるから、こういった政策提言や対話集会に参加したいと思う子達の方が多い傾向があると思うので、そうではない層をいかに取り込むかということを見ると、別のアプローチが必要かもしれないと思いました。

あとは、ずっと住んでいたいであるとか、一度は県外に出て戻って来たいと思っっている子達がいかにそういった時期に、本当に目的を達成できているのか。県内で就職しなかったのだけれども、やむを得ず県外しかなかったという状況になっているのであれば、県内の就職情報であったり、大学の魅力などをしっかり伝える必要があると思います。もしくは、一度県外に出て戻って来たいという子に対しては、今県や市町村が色々と実施している移住政策やUターンといったものが、どこまでアプローチできているのかということに検討の余地があると思いました。

一概に言えないのですが、直接生徒達と関わって感じたのは、特に外に出たい子達の思いというのは徳島が嫌いというわけではなくて、人生の可能性みたいなものをもっと探したいといった思いが強くなって、それは都会に出て刺激を受けたいと

いった成長意欲みたいなものだと思っていて、それを押さえつけるのはよくないなという一方で、高校を卒業した後にはかそういう機会がないことが、今の流出に繋がっているのかなとも捉えられるので、そこまでの段階で徳島にいながら多様性を感じられる環境づくりが1つ大きな施策になっていくのではないかと思います。

(金部会長)

ありがとうございました。  
他にはいかがでしょうか。平岡委員、お願いします。

(平岡委員)

私も小松島西高校での対話集会に参加したので、感想などを述べさせて頂きます。まず、自分の目の前で高校生の意見を聞く機会がなかなかないので、非常に私も勉強になりました。

参加させて頂いて、感じたことが3点ありまして、1つ目は会場の設営に関してです。小松島西高校の場合は、高校生が教室の窓側と通路側にそれぞれグループ化されているような状態で、それに対して垂直に並べられた机に大人が座っているという会場だったのですが、そういった設営になると大人側が高校生の意見を聞いてあげるといふ空気になってしまったと感じました。また、高校ごとにグループ化されている座り方だと、別々の高校から参加している意義が薄くなってしまっていて、映像を見終わった後は丸の形に椅子を並べて、全員が同じ目線に並ぶような形で話し合いを進める方が、より自分のグループを意識せずに参加することができるのではないかと感じました。

2つ目ですが、進め方として高校生が対話集会に参加している意義を共有できているのか疑問に感じました。正直に言いますと、私も参加していて、会の進め方が最初に示されていなかったもので、どこにゴールを作られているのか自分が考えながら参加しているような形でした。一番最初に高校生に今日の目的は皆さんの意見を県政に反映するために開催するであるとか、できるだけ1人1人の意見を県の施策に取り入れたいのでリラックスした気持ちで参加してくださいといった、場の空気、環境づくりももちろんですが、言葉として文字で示すことで、より高校生も意義を感じながら会を進められるのではないかと思います。ゴールをまず示すことと、最後にゴールに辿り着いたことの確認をすると、高校生も会に参加した意義をより感じられるのではないかと思います。

最後に、有識者の方が参加して下さっていたのですが、私としては少しもったいなく感じました。小松島西高校の場合は、県外から来られた経験を持つ方が参加されていたのですが、意見をもらう場面が1, 2回あっただけで、私が高校生だったら「何でこの人いるのか」と思ってしまおうと感じました。せつかく有識者の方に参加して頂いているので、その人達にも活発に参加して頂けるような仕組みを作って、本当に県民と県外から来た方と高校生のそれぞれの意見が行き交うような場になるとよりよい意見交換ができるのではないかと思います。

その他は、スケッチブックの活用とか、ウェブ端末の活用で意見を集めるという形式はとても高校生になじみがあると思うので、進行の仕方として非常に良かったと思っています。

(金部会長)

ありがとうございます。今後に繋げていければと思います。  
では、藤岡委員お願いします。

(藤岡委員)

私は鳴門高校での対話集会に参加させて頂きました。そこで感じた意見について

何点か述べさせていただきます。

先程、高畑委員がおっしゃられたように、若い人達はこれから大学に上がる時点で、刺激、出会いや可能性、あとは教育の質といったところを求めていると、とても感じました。私自身が県外出身なので、徳島にこそあるものとかもすごく分かるんですね。ただ、それは県外を知っているからこそ、徳島の良さやあるものに視点が向けられるというところをすごく感じましたので、徳島県内にずっと若者を置いておこうという視点ではなく、一度羽ばたいておいでというような後押しというのでも必要ではないかととても感じました。やはり小さい子供を育てていると、徳島はすごく自然環境もいいですし、そこまで困ることはないと思うのですが、私も中学・高校・大学というように子供達が大きくなっていく上で、徳島の教育で満足できるかと言えば少し物足りなさを感じているところは実際にあります。高校生の皆さんもそういうところがネックになっている部分があるのではないかと思います、主な意見にもあったように「行きたい学科がない」であるとか、自分が学びたいことが徳島では学べないような状況が発生していることが1つ問題点でもあると思いました。もし徳島で学べる環境が整ってくれば、徳島にずっといるという選択肢もきっと出るけれども、今はないから県外に出ていくしかないという思考になっているのではないかと思います。

あとは高校生の皆さんと色々お話しをしていて、徳島はないものが多いというバイアスにかかっているというのをすごく感じました。もちろん都会やもっと発展している地域に比べたら、ないものは多いかもしれないです。就職したい大企業が少ないというのも確かにあるかもしれないですが、私が県外から徳島に来て、ないからこそ自分達で作れるということをすごく感じていて、ないから自分達でもっとこういうことをやっていこう、作っていこう、そういうことをしてもいいんだというような、自分達で新しいものを作っていくという思考が、まだまだ若い人達の中で足りない部分になってしまっているのではないかと感じました。既存のものの中で選ばないといけなйдとか、私が親御さんと話して感じるのは親が県外に行かせたくないだったりだとか、若者が求めているものと大人がさせたいと思っているもののギャップもすごくあると感じたので、そういうところをすり合わせていく必要が今後あるのではないかと感じています。

(金部会長)

物事をポジティブに捉えて前向きにといった意見でした。ありがとうございます。今回、青木委員と近藤委員に3回対話集会の進行をお願いしたのですが、今の方のご発言を含めて、全体として今後進めていくべきことについて、ご提案などございますか。

(近藤明子委員)

3回ともコーディネートする立場として出席させて頂いたのですが、やはり高校生達は色々なことを考えていて、それを発信する場をすごく求めていると感じています。

運営の仕方・進め方で、皆さんに万遍なくご意見を伺うということができておりませんが、どういうことを伝えたいであるとか、どういうことを聞きたいというのは、まず始めに事務局から説明して頂いており、高校生達はある程度何を求められているか、何をディスカッションすべきかということは前提にあったかと思えます。その中で1つ1つの質問に対して、こんな質問をしますということは説明していませんでしたので、そこにつきましては考えて頂きながらということなのですが、3つの会場ともすごく活発に議論をして頂き、意見を出して頂いたと思っております。

それで色々高校生達の意見を反映するにあたり、いつも言われていることですが、彼らがしっかりと議論してくれた、提案を出してくれたものが、実際どのように活かされているのかは、しっかりとフィードバックをして、自分達が言った意見がしっ

かりと県政に反映されていることを実感して頂いて、その上で大学・就職というところに羽ばたいて行ってほしいと感じております。

県内に行きたい大学がないという意見については、我々の努力不足と思っているところに加え、就職先については県内にすごく素敵な企業がたくさんあるのですけれども、その企業の情報が高校生に行き渡っていないということがあります。第1回目は知事にも参加頂きまして、色々高校生に対するアドバイスもして頂いたのですが、やはり魅力的な徳島のもの・こと・場所ということに加えて、彼らが今後歩いていくであろう所の企業の情報もしっかりと出していかないといけないと自戒も込めて感じております。

(青木委員)

ほとんど近藤委員から言って頂いたので、私個人の意見を発言させていただきます。私は2回参加をさせて頂きました。先程皆さんが意見を言われている中で、何点かキーワードが出てきたと思います。

例えば、高畑委員がおっしゃった他の参加者の取り組みについて、その視点は非常に大事でございまして、正直に言いますと、確かに手を挙げて参加された方が多かったのではないかとこの感覚は持っております。他の参加者の取り組みは、今後やり方を変えていけばいいのではないかと考えています。

それとキーワードの中で、近藤委員がおっしゃった場が大事だというのは、その場でどのテーマでいくのかといったところと、地元の企業であったり、Uターンであったり、大学であったりといった大きなカテゴリー毎のセッションというのが、今後求められるのではないかと。新未来セッションNEOは今言ったキーワードを全部まとめて意見交換するので、当然時間も無いし目的がぼやけてしまうという視点は、今後の運営に反映するために精査する必要があるのではないかと考えております。

対話集会での進め方などについては、今後、質問事項であったり、平岡委員がおっしゃったように円卓にして目線を合わせるということも1つの手法ではないかと思えます。雰囲気と場作りというのは非常に大事でして、私も色々な座長などをさせて頂く中で、そういった雰囲気作りというのは大事だと考えております。

近藤委員がおっしゃったとおり、フィードバック、意見交換してどうなったのかということで、見える化をして、高校生の皆さんが現実を見る、体験することで、政策・施策としては反映されやすい視点があるのではないかと考えております。フィードバックの仕方については今後県と皆さんと共に考えて、高校生にも見える化をして頂ければと考えております。

(金部会長)

ありがとうございます。事務局から何かございますか。

(事務局・政策創造部総合政策課)

色々ご意見を頂きました。高畑委員から徳島愛を非常に感じたというお話がありました。昨年度に総合計画を策定する時に、この対話集会を取り入れたのですが、その時も我々が思っている以上に徳島に対しての愛着といったものが感じられました。一方で高校生、若い方々は、地元のことはあまり知らないというような話もありまして、そういったところの情報発信が大事だと改めて感じたところです。

そういった中で、今回70名あまりの高校生などに参加頂いて、できる限り活発にご意見等を頂くということで、人数を昨年度より絞り込んだという形ですけれども、ウェブシステム等を通じてご意見を頂くということで、そちらはセッション終了後一定期間開設して、継続して意見を頂くという仕組みを取り入れました。今年度は次期総合戦略策定に向けての意見を頂く場ということもありまして、来年度以降のセッションについては、委員の皆さまと意見を交わしながら試行錯誤をしながらやっております。

て、いい点はどんどん取り入れて見直す点は見直していきたいと思います。先程平岡委員からもありました、設営の形や進め方などは更に見直して行って、いい形にできればと考えているところです。

また、テーマにつきましても昨年度は総合計画を策定するにあたってということで、徳島の将来像という広いテーマで開催したところです。今年度は総合戦略ということで、徳島に帰ってきて頂く、徳島の魅力はどうかといったテーマで色々意見を頂きました。来年度以降はある意味フリーという形になると思いますので、そういった中で高校生の方に身近なテーマ等、もう少し絞り込む形になるかと思っています。例えば現在、SDGsといった考え方がかなり急速に浸透していております。SDGsはかなり幅広いので、その中でも生活や地域に身近なテーマを取り上げ、例えば高校生の方からアイデアを出して頂くことや意見を頂くことなども含めて、委員の皆様とお話しをしながら来年に向けて検討を進めていきたいと思っております。

(金部会長)

ありがとうございます。若者の意見を吸い上げ、取り入れることは非常に大事だと思います。それによって参加する若者は県政に関わっているという意識も深まると思いますし、徳島県人としての所属感も深まると思いますので、これからこの対話集会はバージョンアップさせながら進めていけたらと思います。参加された委員の皆様ま、お疲れ様でした。それでは続きまして、『『未知への挑戦』とくしま行動計画』令和2年度への改善見直し(案)について、事務局から資料の説明をお願いします。

#### 1 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」改善見直しについて

事務局より、『『未知への挑戦』とくしま行動計画』改善見直しについて、資料2・3により説明の後、意見交換が行われた。

<意見交換>

(金部会長)

それでは総合計画の来年度に向けた改善見直し(案)について審議を進めていきたいと思っております。資料に記載された項目に限らず、計画の改善見直しに関して県政全般にわたってご意見等ありましたら、ご発言をお願い致します。高畑委員お願いします。

(高畑委員)

先程の高校生との対話集会とのつながりで、今回の改善見直し案は今回のセッションの意見を反映させているのか、次の反映の機会に回すのか、教えて頂けますでしょうか。

(事務局・政策創造部総合政策課)

9月、10月の対話集会「新未来セッションNEO」で若者の皆さんから頂いた意見につきましては、具体的な施策の取り組みの中で反映できるものとか、また大きな事業などの中で考えていく必要があるものなど、色々あるかと思っています。今回お示ししておりますのは、現時点での取り組みの中で改善見直しができるものをあげております。資料2にも記載しておりますとおり、対話集会で頂いた意見につきましては、例えば来年度の新しい施策や事業の中でどう反映させていくのか、また施策・事業を具体的に組み込んでいく中で反映できるものもありますので、新規事業・予算等に反映していくものにつきましては、現在予算を検討している真っ最中ですので、そういったものは、来年2月の全体の取りまとめの中で、できるものは反映していくということで作業をしているところです。また、施策の推進の中で色々参考にしたり反

映できるものにつきましては、そういった中で取り組んでいくということで、来年2月の時に、若者の皆様から頂いた意見がどういった形で反映されていくかということも、主なところについてはお示しできるように考えたいと思います。

(高畑委員)

やはりフィードバックのところはかなり重要なのは、今回新未来セッションNEOを昨年度から取り組みをしていく中で、フィードバックが重なっていき、セッションに出ると本当に県が動くらしいぞということが後輩に伝わっていくと、参加者も増えるし、意識も変わってきたりして、結果的に徳島愛がない子だとしても、自分が県政を変えていけるというような当事者意識が、ゆくゆくは戻って来る要因になったり、ここに住み続けようということになったりすると思います。直接的にKPIがものすごく変わったというのは嘘になってしまうので違うと思いますが、こういう意見が参考になって具体的な施策でこういうところに繋がったという話が見えてくるとすごく良いのではないかと、もしくは反映ができなかったことに対しても説明ができていくと、少しレベルを上げなければいけないなど自分自身を顧みるきっかけにもなると思うので必要なと思いました。

今回、教育の観点で、コミュニティスクールの導入学校数を増やしていくことですが、コミュニティスクールで実現されるもの、特に生徒達がどういう状態になるのかということも含めて、全国でも事例を見ていると形骸化している地域も散見される中で、もちろん数値目標を持つことは大事だと思うのですが、最終的に徳島でコミュニティスクールにしていく、数を増やしていくことによる成果のような部分、数字だけでなくその先にある部分が、もし今時点でありましたら教えて頂ければと思います。

(教育委員会)

コミュニティスクールについては、まずどういうものかと言いますと、保護者や地域住民が合議制の機関である学校運営協議会を通じて学校運営に参画し、より良い教育の実現を目指す、地域に開かれ、支えられる学校の仕組みです。今回、目標数値を上方修正した理由については、平成29年に法律が改正され、学校運営協議会の設置が努力義務とされたこともありますし、全国で非常に数が増えているという流れがあります。

コミュニティスクールの効果につきましては、目的にありますように地域と共にある学校づくりというところが一番大きいと思います。コミュニティスクールについては、学校側が学校運営の基本方針というものを策定しますが、それを承認するという機能があります。学校運営について学校や教育委員会に意見を述べるができるといったような機能も持つこととなります。そういったことから社会総掛かりで学校づくりを行えるところが大きな効果・目的であると思います。

(高畑委員)

ありがとうございます。各学校・地域単位で動いていくうちに、動かし方が難しくなったり、家庭がより文句を言えるといった形で捉えられてしまうことも他の都道府県でもあったりします。徳島県でコミュニティスクールを導入することにすごく賛成で、なぜかという、大人達の暖かみであったり人情であったりが徳島のすごくいい所であると思いますので、それを形式上というよりはその地域地域にあった形で、まさに家庭での教育ということも含めて、学校と対等な立場で運営ができていくとより良くなっていくのではないかと思います。

(金部会長)

ありがとうございます。学校運営に地域の声を反映するということだと思っておりますが、

まさに高畑委員がおっしゃった徳島愛を育む上でも、地域に根ざした教育、それから地域住民と一緒に作る教育の在り方について考え、推進していく必要があると思います。

他にいかがでしょうか。近森委員お願いします。

(近森委員)

まず数値目標の修正ということで、私は総合計画審議会にも参加をさせて頂いておりまして計画も見させて頂いているのですが、今回「介護に関する入門的研修」の修了者数を80人から300人に修正されるということで、人数的にこれだけ数字が上がるといことはすごくニーズがあったのかと感じました。ここはまさにニーズをどう汲み取り、県政に反映するかという意味では、すごく注目すべきところかと考えておりますが、もし可能であればなぜこのように数字が上がったのかについて教えてください。

また、東京2020オリパラ事前キャンプ誘致数が4件から6件になったということで、これは先程来お話があった関係人口を増やすという意味でも、海外の方に徳島を知って頂く良い機会でもあると思います。今回流行語大賞にもなりました「ONE TEAM」のラグビーもすごく盛り上がりまして、徳島もジョージアのキャンプ地となっていたということもありますので、1つのことではあるかもしれませんが、すごく人が繋がっているというのを感じました。

数値目標ですので、目的ではないといつも理解しております。数値を達成することが目的ではなくて、あくまでも指標であると思っていますので、その意味でも数字の設定はすごく難しいことですが、高畑委員もおっしゃられたように、数値を達成することが目的ではなくて、施策を進めることによって数が上がっていく、先ほどのコミュニティスクールにもありましたように、これから必要だとされているからこその数字であって、内容を重視していくことが必要だと感じております。

もう1点ございまして、先程、対話集会「新未来セッションNEO」の話を聞かせて頂きました。私も参加できずにその場に行き行って聞いてみたかったという感想はあるのですが、高校生の意見の中に「県内に大きな企業が数えるほどしかない、働く場所がない」というものがあつたかと思ひます。私は働き方にも色々関わっておりまして、先日東京のセミナーに出席しました。そこに参加されていた1つの大企業がありまして、その企業では地域採用の方もいて、全国に社員がいらっしゃるようですが、今までは地域採用の方はその地域の中での仕事をされていたようですが、これからはテレワークとかICTを活用した多様な働き方が出てくるというところで、環境を整えることによって本社の仕事を地域でもしていくということがあつるそうです。あとは研修も実施しているようですが、地方からは出席するまでに時間やコストがかかるということがあります。ICTを活用して遠隔で参加されていて、本当に地域と東京など、デジタルやICTを活用することによって壁がなくなつてきているということも私も肌で実感しました。まだまだどういふ風にやつていくか試行錯誤の点もあつますが、高校生の場合だと就職して県外に出て行くときには、そういった働き方が当たり前になっているということも何か伝えていければと思ひました。

(保健福祉部)

介護に関する入門的研修についてご質問を頂きました。これは介護の未経験者の方が介護に関する基本的な知識や介護業務の基本的技術を学ぶために実施しております。介護分野では人材不足をかなりいわれていますので、介護分野への参入のきっかけづくりや業務に携わる上での不安の払拭に繋げることで、多様な人材の介護職への参入を目指していこうという形で研修が実施されております。そして、研修の課程は厚生労働省が定めており、基本講座3時間と入門講座が18時間の計

21時間の研修課程となっています。通常基本講座と入門講座を合わせて3日間程で、1日7時間程で実施していきませんが、丸1日出席するというのはハードルが高いということで工夫を凝らしまして、4日間に分けて実施するような形を取っております。このため1日辺りの時間は短くなりますので、参加者数の増加が図られました。さらに、これは試行的な取り組みとして始めたばかりですので、まずは徳島市などの東部地域での実施予定だったのですが、問い合わせ数やニーズが大きいということが分かり、南部・西部でも実施しようと、また、3回程実施する計画を計8回程に、研修回数を大幅に増やしました。そして企業や団体で受講したいというのもあり、20人以上でまとまって受けて頂く出前講座も実施するなど、実施にあたり工夫を凝らしました。それで実際の実績がかなり上がってきたということで、今回目標値を上方修正させて頂いております。あと、この研修受講生の中で、基本60歳以上になるのですが介護助手制度をこちらで運用しておりますが、この制度の紹介もさせて頂いて、介護助手制度にも繋がるような研修の運用を行っている状況となっております。

(事務局・政策創造部総合政策課)

近森委員からセッションの関係で、働き方の話がございました。実は第1回目の新未来セッションを脇町高校で行ったときに、大学生と高校生に加えて地域の方ということで、サテライトオフィスで徳島に来られている方にも参加して頂きました。そのサテライトオフィスは三好市内にあるんですが、会社の中の所属は札幌なのですが、仕事は徳島県内で本社の仕事をされているというお話しがありまして、やはりICTを使って地方においても、例えば東京などと変わりなく仕事ができているということで、高校生の方も含めてそういった事例を聞けて、大変参考になったというお話も頂きました。セッションではそういったところも色々で紹介していきたいと思っております、一方、その場でも大企業もほとんど数える程しかないというような話もあり、企業の情報や就職等の情報発信の大切さというのでも改めて感じました。

(県民環境部)

2020東京オリンピックパラリンピックにおける事前キャンプの誘致数ということでご意見を頂きました。事前キャンプの誘致については、本県と友好交流関係を結ぶドイツのニーダーザクセン州ですが、その交流の土台とするドイツ、それから徳島商業高校とカンボジア日本友好学園との交流を土台とするカンボジアをホストタウンとして登録を致しまして事前キャンプ地の誘致を進めてきたところです。その結果、ドイツのカヌー、柔道、ハンドボール、カンボジアの水泳について、代表チームのキャンプに関する基本協定の締結に至ったところです。また、ネパール大地震への支援を契機とするネパールとの交流、それからラグビーワールドカップで絆が芽生えたジョージアについても、今年度ホストタウン登録がされたところでした、更なるキャンプ地の誘致実現を目指して上方修正させて頂いたところです。ラグビーワールドカップに関しまして、こういった事前キャンプにつきましては、ジョージアをお迎えしたところです。本年9月9日から16日の8日間行われたところですが、公開練習では闘志あふれる力強いプレーといったところで話題になり、来場者が増え交流イベントを含めた8日間で延べ3,000人を超える多くの県民の方々に代表チームの迫力を体感いただいたところです。また合わせて、スクールビジットということで鳴門市や北島町の小中学校を始めとした6校においてラグビー体験や書道・邦楽など、それぞれの学校が創意工夫を凝らしたおもてなしによりまして、子供達と選手との心温まる交流もなされたところです。その代表チームのヘッドコーチからは練習環境の整備に対する高い評価や徳島の皆さんの温かい交流で家族のように感じるという感謝の言葉を頂いたところです。このラグビーワールドカップや今後行われるオリンピック・パラリンピックの事前キャンプについては、その効果として施設の改修や競技備品などを整備することにより、県内選手の競技環境の向上が図られると共に、世界トップアス



リートの技術や練習方法などを直接体感することによる競技力の向上、またご意見にもありましたが、来てくださる関係者方々をはじめ、インフルエンサーを通じた本県の魅力発信にも繋がり、インバウンドへの効果が期待できるものと考えておりますので、今後ともキャンプを通じて本県の魅力発信などに繋げて参りたいと思います。

(金部会長)

多様な働き方という話がありましたが、多様な働き方を奨励することの最終的なゴールはワーク・ライフ・バランスではないかと思えます。つまり、仕事と生活の調和をいかに図っていくのかということは非常に大事なことです。そういったことも多様な働き方とともに考えなければならないと思えます。

藤岡委員、お願いします。

(藤岡委員)

この見直し案以外ですが、少子化対策と、シェアスペースとシェアオフィスについてお話しをさせていただきます。

まず少子化対策についてですが、幼児教育・保育の無償化が始まり、待機児童数も現時点では少なくなってきたかもしれませんが、また増えてくる可能性があります。無償化が始まると、入れようとする人達がどんどん増えてきて、その穴埋めのために保育園の数を増やそうとしていると思うのですが、その現場で働きたい潜在保育士が減ってきているところにまず着目していく必要があると思っております。園の数をどんどん増やそうとして、しかし保育士さんが足りず、保育士さんの数を埋めるために支援員さんの活用を進めるということになってきてしまっていると思えますが、保育の質を考えていくと、しっかり資格も持って本当は現場で働きたいけれど、それが叶わない状況にある潜在保育士さんがたくさんいらっしゃいます。様々な給与面の問題、人間関係やスケジュールなどの働き方といった色々な問題があるかと思えますが、そういった潜在保育士の方々が保育園でしか働けないのではなく、私がたまたまベビーシッターのマッチングサービスに携わっているので、自分でスケジュールを決めて働くことができるのであればもっと働きたいという潜在保育士さんもいらっしゃいます。そこでファミリー・サポート・センターという行政のサービスももちろんありますが、現場のお母さん達の声を見ると、やはり少し使い勝手が悪い、事前に申し込みが必要なので、急に用事ができた時に頼みにくいという状況が発生していることがあります。やはり年配の人が多く、教育や子育てに対する意識の差みたいなところを感じて頼みにくいという声もありますし、本当に資格を持っている人や子育て世代で同年代の人をお願いしたいという声も実際に聞いています。なので、保育園だけ、行政のサービスだけでどうにかしようではなく、民間とも手を組んだ状態でサービスを補っていくという視点も必要ではないかと思えます。

保育園に入る人達が増えてくると働けるようになったお父さんお母さんも増えてきますが、そういった時に問題となってくるのが病児保育だと思います。どうしても仕事を抜けられない状況になった時に、私も病児保育をお願いすることがありますが、病児保育もすごく手間がかかります。毎回、同じ書類を一から書いて、朝一番に電話をして予約をとって預けに行っていると、勤務時間に遅刻してでも預けに行かないといけないという状況が発生しているので、もっとウェブ化していったらどうかと思っています。毎回同じ情報を書く必要はなく、最初に登録さえしておけばその情報を反映できて、サイト上で空きを確認できたり、空いている病院にオンラインで予約ができたり、そういったサービスにしていけばもっと使い勝手も良くなるし、たらい回しにされるような必要性もなくなってくると思えます。

それと長期的な目線でいくと、保育園の待機児童ばかり考えるのではなく、学童保育も今市町村によって差ができてしまっていると感じています。徳島県の中でも松茂や鳴門とかだと長期休み・夏休みだけの預かりもできますが、徳島市はそれがで

きないだとか、利用金額なども全く違います。そういったところで、本当は利用したいけれども利用できないという人達も今後発生してきますし、今もそこに問題点を抱いているお父さんお母さん達の声も聞きます。なので、放課後児童クラブに関しても今は公的な学童保育しか主にはないかと思われませんが、もう少し民間の学童保育の推進も図っていった上で、そこに対する助成なども考えていけばどうかと思っております。

もう1点、シェアスペースやシェアオフィスに関してですが、徳島県は本当に起業支援や起業塾、徳島フューチャーアカデミーなどの若者や女性の活躍推進・助成にすごく力を入れている県だと思っております。県外からの人達にもとても驚かれます。支援が充実している、学べる場があつていいねと言ってもらえるのですが、今後、それを実践に活かす場所という観点をもっと考えて欲しいと感じています。実際に何かを始めたいと思っても、テナントを実際に借りるとなるとすごくお金が掛かったりだとか、そこで動き出せないから諦めてしまう場合も考えられるので、今色々な県を見ても行政が運営しているシェアオフィスなども出来てきていると思います。徳島県も街中だと駐車場問題も出てきてしまうので、古民家を利用してシェアスペースを作ったりだとか、コミュニティカフェなどを作って、起業したい、起業の第一歩を始めたいという人達の支援も今後必要になってくると思っております。起業登録をして、期限を設けて安価に借りられるなど、そういった対策をしていけばもっと現実問題として実践に移して活躍していける人材が増やせるのではないかと思います。

#### (県民環境部)

潜在保育士を中心に、その確保に向けたご意見を賜りました。本県においてはこれまで保育士の確保策として、平成26年度に保育士・保育所支援センターを設置しまして、保育現場への就職支援の充実を図っているところです。例えば保育事業者、保育士養成施設と連携した保育フェアの開催、未就労の保育士を対象とした職場体験の実施、潜在保育士が復帰しやすくなるための潜在保育士の研修会の実施などを行うことにより、マッチング機能というところの強化・充実を図ってきたところです。平成30年度には保育士登録者へのアンケートを実施し、保育士登録者の現況、再就職の意向の把握に努めると共に、アンケートの結果については住所地市町村へ情報の提供を行うなどをしており、市町村との連携により潜在保育士の再就職の促進を図っているところです。また保育士を目指す学生への修学資金貸付け等の制度をはじめとして、新卒の保育士など、潜在保育士も含め、保育士確保への取り組みを推進して参りたいと考えております。先程おっしゃって頂いたようなスケジュールリング、働ける時間と働こうとする場所との時間がなかなか合わない等の問題もあると思いますが、その辺につきまちはきめ細やかなマッチングといった点でできる限り対応していきたいと考えております。

それから病児保育の方については、先程ウェブによる予約や空き状況の確認等のご提案を頂きましたが、こちらにつきましては実施主体となります市町村、広域のところもあります。そういったところとも検討を進め対応して参りたいと考えております。

もう1点、放課後児童クラブについても、ご意見を頂きました点も大事だと思っておりますが、まずは実施する団体や地域の方々等、また市町村も含めて対応して参りたいと考えております。

#### (商工労働観光部)

起業へのスタートアップへの支援と場所の提供についてご質問を受けました。県はこれまで、まずは最初のご相談、どういったプランでどのような事業をしたいのかという相談への支援について、創業準備オフィス・エッグルームを運用しており、それは専門の方がご相談を受けて、実際に課題の抽出をはじめ細やかな創業の準備支援をしております。その準備支援が整えば次に立ち上げ支援、創業後の支援とい

うところで場所の提供について、川内町にある健康科学総合センターにベンチャー  
ルームを設けていたり、先程のエッグルームの活用であったり場所の提供もさせて  
頂いておりまして、立ち上げ後の優秀な方々に対しては、ビジネスチャレンジメッセ  
をアスティとくしまで毎年行っていますが、そこで知事から表彰させて頂いて広く県  
内外にこういった事業が新たに創業したことをお伝えさせていただいています。さら  
に優秀な方につきましては、今年度から、知事が訪問して、企業の紹介を短い動画  
にしてユーチューブで広く内外に情報発信させて頂くなど、立ち上げから創業後の  
支援をしっかりとやっているところです。今後ともこのように新たなチャレンジを行う  
方々に対して、次年度以降も積極的に行っていきたいと考えております。

(事務局・政策創造部総合政策課)

シェアオフィスといった直接的なものではありませんが、県内でのサテライトオフィ  
スは全国トップクラスで、他県に比べてもそういった人材が非常に多く県内に来て頂  
くという優位性もある中で、コワーキングスペースが県内で現在11カ所ございます。  
起業や新しいアイデアを实践する場として、コワーキングスペースのネットワーク構  
築など、色々な形を通じて支援していこうと考えております。行動計画の73ページ  
に、コワーキングスペースの利用者数の拡大を図るということで、2022年度におい  
ては1,500人から3,000人、倍増という形で目標を据えて取り組んでいこうとして  
おります。こういった場に志を持った方が色々集まってくるということで相乗効果も期  
待できますし、そこに県内の方も入って頂くことで刺激も生まれ、新しい企業や地域  
活性化にも繋がっていくと思っておりますので、しっかりと取り込んでいきたいと考  
えております。

(金部会長)

ありがとうございます。  
それでは平岡委員お願いします。

(平岡委員)

私の研究テーマに関わる質問を4点させていただきます。

まず1点目「フォスタリング」について、担当が県民環境部になっている根拠をお  
伺いしたいのと、養子縁組を徳島県に限定して募集するというのが少し難しいと個  
人的には思っていますが、このフォスタリング制度は全国的なネットワークを利用し  
たものなのか、それとも県の中で独自に作っていかうとしているのかについてお伺  
します。もう1つはこのフォスタリングシステムを新しく作って推進していこうとい  
うことですが、その計画や実施の報告などの情報を県民はどこで得ることができる  
予定になっているのか教えてください。もう1つ、里親制度はもちろん重要だと思  
いますが、家庭で育てられない子供に対してということで、特別養子縁組の重要  
性も訴えていく必要があるのではないかと感じており、やはり里親だとある程度  
子供の年齢が達してからでないかと預かれないであるとか、18歳以降の支援が  
できないという課題があるので、本当の意味での親子関係を作る特別養子縁組  
の推進も必要だと思うので、特別養子縁組の推進がフォスタリング機関の中  
に含まれているのか、もしくは別の部門が担当していくのかという点に関し  
てもお伺いできればと思います。

2点目の「高齢者の人材育成支援」についてですが、行動計画の96ページの2  
項目にある「保育士の業務負担の軽減や保育の質の向上を図るため、高齢者の  
人材育成を行う」とありますが、この育成された高齢者は国の進めている子育て  
支援員という位置づけになるのか、どういう根拠で高齢者の方が保育に入る  
という形になるのか、ここに「保育助手」という言葉がありますので、保育  
助手という県の作った仕組みに添って育てていく予定なのか。そういった具  
体的な法的根拠、国の進めている仕組みの中のどこに位置づけられるものな  
のかお伺いしたいと思います。

3点目、ファミリー・サポート・センターについてですが、子育て支援を行っていくという意味では商工労働観光部はもちろんですが、保健福祉部や教育委員会、政策創造部など、もう少しより多くの部で関わっていく方が望ましいのではないかと個人的には思うので、商工労働観光部が担当する根拠と、今後もこの方向性は変わらないのかということについて伺います。

4点目ですが、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で子育て世代包括支援センター、日本版ネウボラについて、国の方で2020年までに全国の自治体単位で普及率100%と設定され、進めて行くということが決まっている中で、徳島県は100%達成していると思うのですが、その情報を見るができないので、県の担当部局がどこなのかという点と、県内では自治体単位での普及率は今100%になっていると思うのですが、ニーズに対する普及率、世帯に対する普及率はどのくらい達成出来ているのかについて、把握しているデータがあったら教えてください。

(県民環境部)

フォスタリングの関係ですが、詳しいデータはお持ちしておりませんのですべてにお答えすることはできない状況です。フォスタリングの特別養子縁組がとても大事だというご発言がありましたが、里親制度については、養育里親、養子縁組里親、専門里親、親族里親の4種類があります。ですので、特別養子縁組を前提とした制度も含まれていると考えております。

(保健福祉部)

ネウボラについて保健福祉部で回答させていただきます。ネウボラについては先程委員からおっしゃって頂いた通り2020年に向けて全市町村で設置する目標を掲げて行っております。委員さんから徳島県では全部できていると言われましたが、24市町村中、3市町で立ち上げが完了しているという状況になっております。それで今年度中に1町で立ち上げることで残り23市町村については立ち上げる方向に進めていっているというところで、目標に向けてということがありますので進めていっております。なおこれにつきましては、運営等の補助金があり、主管省庁が厚生労働省で、県民環境部と保健福祉部の両方で補助金がありますので、両部が連携しながら市町村の設置支援を行っていくという形で動いているところです。

(商工労働観光部)

ファミリー・サポート・センターについては、子育て中の家族が安心して子育てと仕事を両立することができるよう取り組む相互援助活動組織ですが、事業の実施主体は市町村です。県においては働きたい人が安心して働ける環境を作るという点から、商工労働観光部が市町村に対して組織の設置を積極的に働きかけてきたところ、平成27年度に県下全域をカバーするファミリー・サポート・センターの設置が完了したところです。こうしたことから、行動計画の中に商工と記載しているところです。

(県民環境部)

アクティブシニアの関係ですが、現在平均寿命の延伸に伴い元気で意欲のあるシニアの就労・地域貢献活動など、元気のあるシニアの方の活躍の場が求められており、こうした意欲のあるシニアの方々に保育現場でご活躍頂いて、保育士の負担軽減と保育の質の向上を図るために、本県保健福祉部の方で介護助手制度を創設しており、そうした制度を保育分野へも拡大しまして、新たに県版保育助手制度を導入することになりまして、アクティブシニアの就労支援の拡充を図っているところです。事業内容としては、シルバー大学校やシルバー人材センターで子育て支援についての幅広い講座を受講頂いた方を保育支援者として民間保育所等が配置する

際に、国庫補助事業を活用した人件費補助を行うと共に、OJT経費についても市町村と連携をして支援を行うこととしております。また、子育て支援研修にアクティブシニア向けコースを新設し、シルバー大学校等からのステップアップも可能にすると共に、研修を修了した方については保育資格がなくても一部保育士業務の代替が可能となる保育補助者として、民間保育所等が雇用する際には同じく国庫補助事業を活用した人件費補助、OJT経費を手厚く補助することとしており、市町村と連携をして支援を行うこととしております。こうした取組みにより保育士の負担軽減やアクティブシニアの社会参画の課題を解決する取組みを進めて参りたいと考えています。

【会議時間の都合、会議中に回答できなかった項目に対する回答】

- ・フォスタリングの担当が県民環境部になっている根拠について  
(県民環境部)

フォスタリング(里親養育包括支援)をはじめ、里親・児童養護施設・乳児院等の社会的養育に関しては、県民環境部次世代育成・青少年課こども未来応援室で所管しており、子ども女性相談センター(県民環境部)と連携しながら施策を進めているところです。

- ・フォスタリング制度は、全国的なネットワークを利用したものか、県独自で作っているのか。

(県民環境部)

平成29年8月に国から出された「新しい社会的養育ビジョン」において、令和2年度までに全ての都道府県でフォスタリング体制を構築するよう求められています。

本県におきましては、児童相談所等においてフォスタリング業務を実施しているところですが、今後、リクルートから研修、マッチング、アフターケアまで包括的に実施する「フォスタリング機関」を設置し、児童相談所と当該機関が連携し、里親による家庭的養育を一層推進して参ります。

- ・県民は、フォスタリングに関する計画や実施報告の情報をどこで得ることができるのか。

(県民環境部)

現在策定中の「子ども未来応援プラン～徳島県社会的養育推進計画～」の中で、里親等への委託や特別養子縁組等の推進を柱の一つとし、「フォスタリング体制の構築」について検討しているところです。

今後、フォスタリング機関を設置した際には、マスコミへの資料提供やホームページへの掲載等によって、県民の皆様にお知らせする予定です。

また、「こども未来応援プラン」の進捗状況については、毎年度検証を行い、県社会福祉審議会児童福祉専門分科会に検証結果を報告し、必要に応じ計画の見直しを行って参ります。

(金部会長)

植本委員、ご意見等ございますでしょうか。

(植本委員)

時間がありませんので、短く2点程で。まず、インバウンドについては阿波踊りのことしか書かれてないのですが、私は県西部から来ているのですが、確実に前年度や前々年度よりも3分の2程は、観光客が減っていると思います。やはり四国の中の災害などがものすごく影響していると思うのですが、路線バスも途中までしか出ていなかったりだとか、インバウンドで来てくださっている海外の方々には交通手段がない状態で来たりするので、そういうところで手立てがあったらと思うのですが、県の施策の中での取組みが一番スムーズだと思うので、相談したいことの1つです。

もう1つは幼児教育・保育の無償化が始まっていますが、小学生以上に関して、アフタースクールのようなものが県西部に関してはまったく、アフタースクールすら知られていないというか、本当に格差みたいなものを感じるのですが、所得が少ないという現状もありまして。何か民間サービスをやろうと思っても、月3,000円、5,000円でも来ないような現状があるので、何か一緒にできることがあればと思っています。

(県土整備部)

今インバウンドで観光客に対する地域での交通手段についてご意見を頂きました。近年の人口減少やモータリゼーションの進展に伴い地域公共交通の利用者がかなり減少している現状です。地域の公共交通を担っている事業者の皆さんにとっては非常に厳しい状況にあるということは認識しております。このため県としては色々な形で利用促進ができないかといった取組みも進めており、JRでは今年度から、四国初となった牟岐線でのパターンダイヤとして定時に同じ駅を発車するという、非常にわかりやすい公共交通の利用の仕方ということで、こういうこともJRでやらせて頂いております。それから県南においては、阿佐東線で全国初となる、バスと鉄道を走行できるDMV、デュアル・モード・ビークルといった取組みも進めております。こういった公共交通機関をできるだけ存続して地域の交通手段を確保、インバウンド観光客の交通手段の確保といったところも進めていきたいということで、今年度はモーターミックス、色々な交通機関を乗り継ぐことで地域の交通手段が確保できるよう、次世代地域公共交通ビジョンを、ご意見を聞きながら策定させて頂いております。このビジョンについては年内の完成を目処に進めていますので、今後、ビジョンに添って具体的な施策を実施して、地域の交通手段をできるだけ確保させていきたいと考えております。

(西部総合県民局)

平成26年になりますが、雪害や台風でインバウンドにも影響が及んだ部分がありました。そういったことを教訓として平成27年度に、圏域の行政や観光団体、宿泊施設、交通事業者、更には国などで構成する「にし阿波観光危機管理検討会」を結成し、その中で危機管理マニュアルを作っております。インバウンド対策につきましても、外国人観光客対応マニュアルという部分を組み込んで緊急時の対応編を設けております。今後も引き続きこのマニュアルについて、地元の関係者の方々に浸透を図っていくと共に、実効性の検証や、マニュアルの改善見直しを継続的にやっているところです。

(商工労働観光部)

委員からインバウンドは西の方では減ってきているのではないかと意見がありましたが、県全体でいきますとまだ右肩上がりです。対前年比でも1月から8月期で18%程増えております。それで圏域別では香港・台湾・中国・米国・韓国というようなところで、今少し日韓関係で日本全体で韓国が減ってきているというようなアウトラインです。具体的な交通手段の部分が一番困ることだと思っており、昨年度からインバウンド旅行者に対して、県内で宿泊をしていただける方については阿波おどり空港でおもてなしのブースを構えており、到着した方々にレンタカーについて説明をしながら、団体旅行以外の方へのレンタカー助成の周知や、レンタカーで県内で1泊、2泊して頂いたら、助成金によりお得に利用できる制度を始めておりますが、やはり制度の周知が難しいところはあります。インバウンドも出発地のほうから計画を立てて来るだろうということで、今年度に制度の見直しを令和2年度にかけて検討しており、台湾のエージェントに対して助成を行うというような検討をしているところです。

【会議時間の都合、会議中に回答できなかった項目に対する回答】

・アフタースクールなどの小学生以上を対象とする子育てサービスを行政と民間サービスが協力して実施できないか。

(県民環境部)

「放課後児童クラブ」は、市町村が実施主体となり、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に通う児童に遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業であり、「公設公営」のほか、社会福祉協議会や民間企業等に運営を委託する「公設民営」等で運営されております。

今後とも、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができるよう、市町村の取組みを補助制度による支援を通じて、放課後児童対策事業を推進してまいります。

(教育委員会)

現在、県内の市町村では、放課後子供教室を実施し、放課後や週末等の活動場所として、子供たちに学習や体験活動を提供しています。

幅広い地域住民の参画を得て実施されており、教員OBや老人会、婦人会、NPO等、地域の社会教育関係団体や民間企業等、多様な人材の協力を得て実施されています。

県教育委員会では、市町村の取組を引き続き推進して参ります。

(金部会長)

では、谷委員にご意見を頂きたいと思えます。

(谷委員)

新未来セッションNEOに戻りますが、こういった機会を提供してくださるといのは、普段地元のことについてそれほど深く考えていない学生達に対しては、意識付けの意味ですごく良いことだと思いますので、このまま継続してやって頂きたいと思えます。

高校生等の主な意見の中で企業が少ない、望む企業が少ないという意見は、私達も耳の痛いことで努力が必要なことかと思うのですが、その中で先程委員からも親の意見もかなりあるのではないかとのご意見もあったのですが、先日、旧三好郡の高校4校の進路指導者・就職担当者の先生とお話しをする機会があり、学校から今は売り手市場で地元の企業は眼中にないということまで言われました。なので地元の企業は自分の社員を大事にして、こちらに募集して頂かなくて結構ですと厳しい意見も頂いて、我々も反省も含めてこれからは対話が必要であると感じました。それで募集をするときに、まちづくりに参加して頂きますという文言を1つ入れただけで、希望者がすごく増えました。そういったことも含めて、企業の大小だけでなく、仕事の内容についても、我々も努力をしていかなければいけないと思えます。できるところできないところの差はあるのですが、考えていかなければいけないと思っております。そこで1点、募集枠について、1つの企業が募集枠2校しか駄目だというのがありますが、これは変更できないものなのか、お伺いできたらと思っております。

次に、先程のオリパラのところで、6ヵ国を目標とされていますが、三好市はラフティングとウェイクボードの世界大会が開催された市でもありますし、こういったところをPRしてもっと数を増やして頂けないかなと思えました。

それと、わなリンピックで害獣という部分で理解は十分できるのですが、命を頂くものなので、このかわいいネーミングには少し違和感を感じました。

あと、免許証の即日交付のところ阿波市となっていますが、三好市ではできないのでしょうか。三好市は四国でも一番面積が大きく、東祖谷から阿波市となると徳島市に行くのと同じ感覚です。ご検討頂けないかと思えます。

【会議時間の都合、会議中に回答できなかった項目に対する回答】

- ・学校に推薦を求める人数が、求人数の2倍までとなっていることについて。

(教育委員会)

学校に推薦を求めることができる人数が、求人数の2倍までとなっていることについては、「徳島県高等学校等就職問題検討会議」において決定し、運用されています。

検討会議は、徳島県商工会議所連合会、徳島県商工会連合会、徳島県経営者協会、高等学校等代表、徳島県経営戦略部総務課、徳島県商工労働観光部労働雇用戦略課、徳島県教育委員会学校教育課、徳島公共職業安定所、徳島労働局職業安定部の団体等からの委員をもって構成しています。

- ・東京オリパラの事前キャンプ誘致について、三好市ではラフティング・ウェイクボードの世界大会の経験があることをPRし、件数を増やせないか。

(県民環境部)

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、これまでの相手国との交流を土台に、キャンプ地誘致を積極的に進めており、既にドイツの柔道・カヌー・ハンドボール、カンボジアの水泳、ジョージアパラリンピック競技の事前キャンプが決定しています。また、その翌年に続くワールドマスターズゲームズ2021関西では、本県において、ゴルフ、ボウリングなど公式競技として6競技種目、さらに、三好市にて開催するラフティングをはじめ6競技をオープン競技として開催することが決定しているところです。今後も、本県の持つ魅力を積極的に国内外にPRしながら、事前キャンプの受入れや大会の成功に向け、万全を期して参ります。

- ・「わなりんピック」の名称について、害獣ということで理解はできるが、命を頂くものなのでネーミングに少し違和感を感じる。

(農林水産部)

農作物被害対策としての捕獲だけではなく、狩猟の本質である趣味としての捕獲のさらなる活性化を図り、次世代の狩猟者育成・確保につなげることを目的とした野生鳥獣捕獲イベントを「わなりんピック」との名称により、令和元年11月15日から12月14日まで開催しているところです。

他方、捕獲したニホンジカやイノシシについては、いただいた命を活かすため、「阿波地美栄(あわじびえ)」として、消費拡大に向けた取組みを推進しています。

引き続き、野生鳥獣の適正な管理や、ジビエの利活用推進に取り組んで参ります。

- ・運転免許センターの整備について

(警察本部)

徳島県警察では、より近い場所で運転免許証の即日交付を望む多くの県民の方々の声に応えるため、令和2年4月1日に阿波市と阿南市に運転免許センターを開設することとしております。また、各運転免許センターから遠隔地にお住まいの方々に対しては、警察職員が自治体施設等に出張し、運転免許更新窓口を開設する「出張型免許更新」(後日交付)を実施することとしております。

出張型の運転免許更新の実施場所は、県西部では「三好市山城公民館」「三好市中央公民館」「加茂公民館」、県南部では「上那賀合同出張所」「日和佐公民館」「ポルト牟岐」「海部自動車学校」で行うこととしております。

実施回数については、「三好市中央公民館」では月2回、その他の場所は月1回とし、第1から第4の水曜日に、「高齢者」と「優良運転者」に対する更新手続のほか、「自主返納」や「運転経歴証明書」の申請手続等も行うこととしております。

なお、各運転免許センターの設置場所については、免許人口の状況や更新者の利便性向上を検討した上で、財政負担軽減の観点から、警察や自治体施設などの既存ストックを活用すること、機能面では、運転免許更新等の行政手続のみならず、24時間体制の警察力の確保や防災力の強化など、治安対策等も含めた



ㄥ 総合的な視点から適地を検討したものです。

(金部会長)

青木委員，近藤委員，いかがでしょうか。

(近藤明子委員)

皆様おっしゃったとおりで，人口減少や少子高齢化が，人口急減・超高齢化と言われる時代の中で，やはり県と市町村が連携を密にすることに加えて，民間や団体，県民の方々と，多様な主体が連携していく，関わっていくことでそれぞれの役割を認識しながら，再確認もしながら関わっていかないといけないと思っております。そのきっかけとなる旗振りを，是非県で担って頂けたらと思っております。

(青木委員)

どう意見を反映するかについては，県政運営評価戦略会議の皆様が提言書をきれいにまとめてくださっているのです，それをしっかりPDCAのサイクルで履行していく，そして改めて総合計画審議会において色々な意見を取り入れることが大事だと考えています。最後に1点，徳島県は広いので，西部の意見，南部の意見，東部の意見をしっかりと取り込んで，東西南北で意見を聞いて，よりよいONE TEAMな徳島の政策に反映して頂ければと思います。

(金部会長)

ありがとうございます。今日欠席されているフェネリーマーク委員から事前にご意見を頂いておりますので，事務局からご紹介をお願いします。

(事務局・政策創造部総合政策課)

フェネリー委員から大きく4点意見を頂いておりますので，ご報告させていただきます。

1点目は新未来セッションNEOの参加者も含めた運用方法をブラッシュアップしていったらどうかという点。2点目は移住者を増やすための取り組みや情報発信の充実，3点目が先程近森委員からも意見を頂きました三大国際スポーツ大会に向けた取り組みの充実，4点目は徳島の自然を活かしたハイキング・キャンプ・クライミングといったレジャーの充実での取り組みを強化していったらどうかといったご意見を頂いております。

頂きました意見につきましては，今後の施策検討の中でしっかり反映を図って参りたいと考えております。

(金部会長)

それでは，時間が参りましたので，このあたりで意見交換を終了したいと思います。

今回，「総合計画の改善見直し」について，委員の皆様から多くのご意見をいただきましたが，本日のご意見をもとに修正すべき点は，修正し，「『未知への挑戦』推進部会」として，審議の経過及び結果について，総合計画審議会の山中会長に報告させていただきます。

なお，改善見直しにかかる反映状況の確認につきましては，私にご一任いただけますでしょうか。

(部会長一任)

それでは，本日，皆様から頂いた貴重なご意見を踏まえ，事務局と調整のうえ，

部会としての、改善見直し案を決定し、来年2月に開催を予定しております、総合計画審議会の山中会長に報告させていただきます。

なお、本日の会議の内容について、疑義等がございましたら、後日でも結構ですので、事務局の総合政策課までご連絡いただけたらと思います。

最後に事務局から何か連絡事項等ございますか。

<事務局説明>

- ・ 本日の会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、御発言頂いた各委員に確認頂いてから、発言者名も入れて公開したい。
- ・ 当部会で決定した総合計画の改善見直し案について、令和2年2月に開催を予定している総合計画審議会に報告し、御審議頂きたいと考えている。

以上